

# 協働



## FCバルセロナの指導

校長 西村 元一

東京都中学生サッカー選抜の指導に携わっていた頃、日本サッカー協会主催の指導者海外研修の参加者に推薦され、スペインで研修を受けました。スペインでは、3度の世界一に輝いた実績をもつFCバルセロナ（以下バルサ）のコーチから、バルサの選手育成について直接指導を受けました。バルサでの学びを紹介します。

バルサのスカウトは、欠点がなく全ての面で平均点の選手より、欠点があっても何かに突出した選手を探すそうです。育成の最終段階、チームに残るための猶予が1年しかない19歳年代のCチームにセルジという選手がいました。彼はミッドフィールダーでしたが、チーム残留には厳しい状況でした。しかし、突出したスピードが魅力で、この年代まで育ててきたそうです。セルジは、このCチームでサイドバックにポジションを替えたところ、スピードを生かして頭角をあらわし、一気にトップチームのレギュラーになったそうです。研修を受けていた当時には、スペイン代表でも活躍していました。突出した個性を生かす指導が大切だそうです。

精神的な強さも重要です。バルサでは、8歳以上の選手からスカウトを始めるそうです。8歳の子供が、親元を離れてバルサの寮で生活すると、サッカーが上手でも、精神的に耐えきれず寮を離れていく選手もいるそうです。また、子供の頃からより優れた選手が現れると選手の入替えがあります。小さな頃から競争に勝ち続けなければ脱落していく厳しい環境の中、精神面の弱い選手は生き残れないとのことでした。「メンタルの弱い選手は、全く必要ではない」と言い切っていました。小さい頃から辛さや淋しさなどと向き合い、困難に打ち勝ってきた者しか生き残れない、それがトッププロの世界であると痛感しました。

バルサのトップチームは、3度も世界一になっている強豪ですが、育成年代のチームは、地域リーグですら常に1部リーグにいるわけではないそうです。バルサの目標は、トップチームの勝利であり、それまでは育成重視であると言い切っていました。8～18歳を指導する者にとっては、チームの勝利は必要なく、各年代で学ぶべきことを選手に身に付けさせることが最も重視され、その年代での勝利ではなく、将来トップチームで通用する選手を何人育てたかが評価されるそうです。

欠点を補うことばかりでなく、個性を伸ばす指導の重要性。子供を守るばかりでなく、鍛える指導の重要性。目先の成功ではなく、将来の成功に結び付くような地道な指導の重要性。子供達を育てる上でも、大切にしたいと思いました。